

NRITA
アートハブ

「ふわりの森 × 徳島県 神山町 KAIR」

特集
ARTの可能性 ART IN TOWN
アーティストと地域が紡ぐ
まちの中心になるアートたち



【神山AIR】 BenoitMaubrey / KaraokeTorii (2017)



【ふわりの森】 足立喜一郎 / cosmic tree @ 旧酒直小学校 (2015)



【神山AIR】 アート作品の前で、KAIRサポーターのみなさん

山林町の中央を東西に横断する鮎喰川の上流、中流の人口は約5400人で、過疎化という言葉からは切り離せない状況にある中、里山の環境の中でアーティスト・イン・レジデンスを始めて、県内外から神山への移住、サテライトオフィスの誘致、新しい店舗のオープンなどがさまざまな変化が起っています。

「アーティスト・イン・レジデンスとは？」
アーティストがある一定期間、自身のアトリエではなく地域や都市に滞在し作品の制作をおこなうプログラム。その地をリサーチし、制作、交流、発表を通じた創造活動を行う。招聘、公募など様々な形式がある。（アーティスト・イン・レジデンスはAIRで省略）

神山町でのAIRのスタート、「グリーンパレー」について教えてください。

【K】1991年に地元有志によって作られた「アリス里帰り実行委員会」が、1992年に「神山町国際交流協会」と発展し、1997年に徳島県が発表した「新長期計画」という総合計画の中の「つくしま国際文化村構想」の1つとして、1999年に「神山アーティスト・イン・レジデンス」事業と「Adopt a highway」環境美化活動を住民参加でスタート。2004年に活動を法人化し、「NPO法人グリーンパレー」となりAIRを担っています。

ARTIST × TOWN

アーティストが地域に関わり、神山に与えた一番大きな影響は何でしたか？

【K】アーティスト・イン・レジデンスという事業は、美術館や大きな芸術祭と比べると小規模で成果も見えにくい部分もあります。しかしアーティスト側の効果からみて、滞在中に制作したこと、考えたこと、経験したこと、またそこで得られた構想といつものが彼らの後の制作活動へと繋がり、反映されることもあります。またそれらの作品が後々、美術館やギャラリーで芸術祭で発表されたりするという未知なる可能性を持ったプログラムと言えるかと思えます。

次ページへ続く



【神山AIR】 内海聖史 / 仰望の色 (2007) @劇場寄井座 (昭和4年に建てられた大衆芝居小屋)

シムラユウスケ
1981年生まれ。現代アートの新しい担い手として、写真、ドローイング、インタラクティブアートなどを国内外で発表し、国内2都市のアプルスアによるシムラユウスケ特集、雑誌「TOKION」のニューヨーク特集、「装苑」の国内外で活躍する次世代の6人に取り上げられ、東京、ニューヨークを拠点に PORTER との(吉田カバン)「YUSUKE SHIMURA TOKYO NEWYORK supported by YOSHIDA&CO.」など様々なメディアから注目を集める。2014年には海外に加え幼少期から育った国内(千葉県成田市・栄町)に拠点をもち、成田国際空港を中心に広がる大自然をフィールドに空港圏初の現代アート拠点「ふわりの森アートプロジェクト」をスタート。「ふわりの森」の代表・プロジェクトディレクター、SAKANAO139 記憶美術館、AIS 記憶美術館、AIS 記憶美術館 館長、2020年 空港都市国際芸術祭「ふわりの森 ARTPARADE」の総合ディレクターを務める。栄町のJR安食駅に自身のアートタワーが常設され、2018年ミラノコレクションでファッションブランドとの最新コラボレーションを発表。

工藤桂子
徳島出身。2007年より、徳島県神山町NPO法人グリーンパレー事務局にて、勤務。神山アーティスト・イン・レジデンス事業担当として、レジデンス事業や関連事業の企画、コーディネート、サポートをしている。

今回はこちらのお二人に話をうかがいました！

本誌連載特集中の成田空港圏初の現代アートプロジェクト「ふわりの森」。アーティストが主体の初の現代アート拠点は4年目を迎え、日本のゲート、成田空港から国内外へとつながりを広げている。今月号は成田空港の就航都市がアートで繋がる「ふわりの森」と徳島県神山町KAIRのコラボレーション。空港圏に次々とアートを誕生させ、NRITAからアートで世界へと繋ぐ「ふわりの森」を手掛けるアーティスト・シムラユウスケ氏と、サテライトオフィスの誘致や移住・地域創生で注目を集める徳島県神山町のNPOグリーンパレーが描く「地域に起こるアートの可能性」を特集！アートを地域に誕生させ町と共に進化していく2つのプロジェクトが、アートの可能性を語る。空港圏にさらなるワクワクするアートの予感！必読！

(以下「ふわりの森」回答) 【K】神山AIR回答)

ART × TOWN

成田空港からの就航都市がアートで繋がる！

成田空港からの目的は「アート」！
空港がアートで繋がる新しい取り組み、アートの可能性、描く構想について教えてください。

【F】「ふわりの森」は成田国際空港を軸に、空港からアクセスできる現代アートの拠点をアーティスト主体で形成しています。「空港から、都心から、地域から」アクセスできるアートのラウンジのようにアーティストがいて作品があり、アートを体感できる拠点として、アーティスト・イン・レジデンスを中核に2014年にスタート。ギャラリー、カフェ、ホテル(レジデンス)、パブリックアートと地域にアートエリアを開いています。空港を持つ都市で自身の海外での活動や国内のアーティストとの協働から、2018年、成田空港の就航都市の美術館・アートプロジェクト・アーティストとをアートで繋ぎ、成田空港を中心に、空港からの目的は「アート」、出発も「アート」と行きたいアートハブの構築をスタートしています。

今回、成田空港から直行便でアクセスできる四国の徳島県神山町のグリーンパレーさんと空で繋がり、地域で生まれたアート、アートが生み出している可能性を発信していけたらと思っています。アートが地域にあることは文化の再構築、地域の中心軸を生み出す可能性を持っています。アートがあり、アーティストが地域にいることで今何が起きているか、スタートと今を伝えていけたらと思います。

成田空港から四国へ！
徳島県神山町のアートが生んだ可能性

成田から四国へ就航便が毎日飛んでいます。アートや移住など注目を集める神山町について教えてください。

【K】神山は四国の徳島県に位置し、面積の約86%が